

こどもセンターひかりの子 支援プログラム

事業所理念

障害や発達の弱さのある子どもたちが、社会という広い生活空間へと船出できるよう、生活力・コミュニケーション力・社会性をはぐくみ、社会生活へのジャンプ台となるように支援します

支援方針

- 子どもたちが自ら気づいて自分自身で行動できる力（自立）を育むために構造化された環境の下での指導を心がけています。構造化のアイデアにより子どもたちの生活全体をカバーします。
構造化とは「どう動いたらいいのか」「何をしたらいいのか」をお子さまが自ら考え、安心して行動できるようにするための方法です
- 子どもたちの行動の意味をよく理解し、望ましい行動が自らとれるように応用行動分析（ABA）により具体的な対応のしかたをチームで話し合い統一していきます。
- 社会生活を円滑に行うためのコミュニケーションや、集団での約束事に添った動き方で、基本的な対人ルール、人と付き合うコツを習得していきます。

営業時間

- 【集団療育】 午前9時30分～午後1時30分
【言語訓練】 月・水・木 午前9時30分～午後3時30分

送迎

- 【対 象】 ・保護者の方の就労により送り迎えができないご家庭
・お車がない、運転免許のないご家庭

※車両数や運転手に限りがございますのでお受けできない場合もあります
また地域によっては療育時間の都合でお受けできない場合もあります

対象年齢

- 【未就園 2～3 歳】 親子クラス
【年少～年長児】 単独クラス（園との併行通園）

支 援 内 容

お子さまへの支援

🌸 健康状態の維持・改善

ひかりの子では毎朝、登所してきた子どもたちの健康観察を行っています。元気はあるか、機嫌はどうか。顔色、表情は？熱やせきはないか、肌の状態、便や尿の様子、子どもさんからのことばな

ど常に様子に気を配り、何か変化や異常が見られたとき、適切な対応ができるようにしていきます。

基本的な生活習慣の形成

生命的な行為として日常的に繰り返される食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔に関して、自分でやってみてみたいという興味や意欲を育て、自分の身の回りのことを自分でできるように「繰り返し」と「反復」により自己有能感をもち、自信をもって遊びや活動に取り組めるように支援します。このことは子どもさんが社会に適応して生きていく最初の過程と考えています。支援者は、子どもさんが自分でやろうとする行動を温かく見守り、励ましたり、手を添えたりしながら、自分でやり遂げたという満足感を味わわせるようにして、自立心を育てていきます。

日常生活を送るうえで必要なスキルを身につけることを目的としており、その延長には自立した生活が送れるようにすることも見据えています。日常生活に欠かせないスキルを習得するためには、何度も繰り返して行うことが大切です

運動・感覚

体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きくかかわっており、人が生きていくために重要なものです。特に幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期でもあります。また、日ごろから体を動かすことは、結果として活動し続ける力（持久力）を高めることにもつながります。

① 幼児用巧技台等の遊具を利用しサーキットトレーニング

様々な体の動き作りを育みます。巧技台を使った運動は、筋力や柔軟性、バランス感覚など、様々な運動機能を高める効果があります。また使い方のルールや、順番待ちなどの社会性も学びます。

② リズム体操

感覚には主に五感と呼ばれる「視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚」がありますが、無意識・無自覚で使っている感覚①触覚（表在感覚）②固有感覚（深部感覚）③平衡感覚（前庭覚）これらが最も発達するのは3～6歳ごろと言われています。この時期に十分に感覚器官を使い、感覚を豊かにすることで、こどもの世界はより広がることとなります。また、感覚情報の適切な交通整理ができるような活動の中で適応行動がとれるように支援します。

③ 散歩

歩行は全身運動です。第二の心臓とも言われる足を使うことで血行が良くなり、身体を温める効果や食欲促進、安眠効果も期待できます。また、散歩しながらジャンプしたり走ったりすることでバランス感覚が鍛えられ、運動機能の発達にも繋がります。

④ 外遊び

外遊びは、生活リズムの改善に加え、子どもの発育・発達における身体的・社会的・知的・精

神的・情緒的の5つの側面を、バランスよく育むことに貢献します。健康なからだ、健全な心、そして脳の発達は、ひいては創造力、前に踏み出す力、やり抜く力、意欲といった、子どもたちの「生きる力」につながります。

⑤ 水遊び（夏季）

水自体に心を和ませる性質があり、水の持つ特別な性質が子どもの快適感や精神的、感覚的な面に影響を及ぼすとされています。また血液循環が活発になり基礎体温が向上し、免疫力が高まります。

認知・行動

心理学的には知覚・判断・想像・推論・決定・記憶・言語理解といったさまざまな要素が含まれますが、これらを包括して認知と呼ばれています。

- ・集団や友だちに合わせて行動を調整できるように支援します（一斉の指示で動ける、友だちを意識して同じ行動がとれる、順番を待つことが徐々に増える）
- ・一定した生活の流れを提供します。一連の流れを理解し、見通しをもって、次の行動を自ら気づいてできるようにします。また、積み重ねで日常生活動作の獲得が促され、「できた」という感覚を味わえるようにします。
- ・初期段階では保育士、指導員との安定した愛着関係を築き、安全・安心の関係の中で、いろんなことにチャレンジできるように支援します。
- ・年齢や発達年齢に合った運動遊びや手指遊び、創造遊びなどの様々な遊びを提供します。その中で物の「同じ」「ちがう」（形・色・概念等）や自分の行動による環境の変化に気づけるよう創意工夫を楽しめる活動になるようにします。

【主な療育方法】

TEACCH

TEACCHは、自閉スペクトラム症の子どもやそれに準ずるグレーゾーンの本人、その家族を対象としたアプローチ法です。生涯にわたり支援するプログラムで、アメリカでは1972年以来行われており、日本に限らず数多くの国で普及しています。

視覚的構造化（時間、空間、活動の順序など）やワークシステムなどを活用したプログラムを実践しており、自閉症による発達の凸凹を治すのではなく、そのまま社会に順応できるよう、地域に根付いて包括的な個別支援を提供していきます。

※構造化とは…何かの活動を行う際に、その活動が容易に行えるように環境を整えること

自立課題（ワーク）

「自立課題」とは「構造化」という手法を用いて、初めから終わりまで自分一人で行うことができるように設定された活動を言います。職員がそれぞれのお子さまの発達段階に見合った課題を手作りし、個別に課題を選び準備します。物事には必ず始まりがあって終わりがあります

自立課題にも必ず、明確な「始まり」と「終わり」を作ります。また、「終わり」を学ぶことは、次の活動への移行のタイミングを学ぶきっかけにもなります。

自分のペースで物事に主体的に取り組む時間をつくり出すことはとても大切なことであり、一人で取り組み続ける力が将来の「働く力」につながります。

自立課題では、最初から最後まで一人で取り組む力や自信を培い、いろいろなことに取り組む意欲を育てることができます。また、認知や言語理解など学習の基礎スキルだけでなく、職業スキルの向上も図り、将来の自立した生活につなげることができます

応用行動分析 (ABA)

応用行動分析 (ABA) は、発達障がいがある子どもへのベースとなるアプローチ方法です。

「強化」「弱化」「消去」の3つを基本原則とし、ある行動に対して環境的・心理的要因の両方向からアプローチします。

過去の経験がよいものであれば発展的に行い、反対に嫌な経験だった場合はその行動をしなくなるという知見から、成功体験を重ねて行動の変化を働きかける手法になります。

認知行動療法 (CBT)

心理療法の1つとなっている認知行動療法は、療育としても効果が期待されています。「認知療法」「行動療法」を合わせたアプローチ方法です。

人間は、外界から刺激を受けて認知して行動を起こしますが、認知の仕方に歪みがあることでストレスを感じることがあります。この歪みを修正するトレーニングを行うことで、自分の行動に自身を持てるように促すプログラムです。

1. 出来事 (きっかけ) を変える
2. 子どもの認知を見つめ直す
3. 行動しやすい環境を作る
4. たくさんほめて気分をあげる



ソーシャルスキルトレーニング (SST)

発達に弱さのある子どもは、社会的なルールに気づくことができず、対人関係に困難が生じることがあります。ソーシャルスキルトレーニングは、そのような困難を解消するために、社会で生きていくうえで欠かせないスキルを身につけるための支援です。

状況に応じた振る舞いやコミュニケーションの方法などを習得することを目的としており、障がいがある子どもに限らず健常児やグレーゾーンの子どものにも積極的に取り入れられています。

ルールのある集団遊びを通じて行うことが多く、他の子どもとの関わりのなかでソーシャルスキルを身につけていきます。

🌸 ことば・コミュニケーション

コミュニケーションや模倣を学ぶ機会を作ります。

自信を持って発言したり、自発的に要求や拒否、報告を伝えられるように場面設定をしていきます。場面や気持ちに合わせた言葉かけをし、模倣することで表現を広げていきます。遊びを通してスタッフと安定した関係を築き、その中で気持ちや遊びの共有、コミュニケーション力を支援します。ものの名称・用途・動作後の理解や表現が広がるように働きかけます。

言語訓練

言語聴覚士による個別の言語訓練を行っております
月・水・木の9:30~15:30 予約制です
新版K式発達検査できます。予約制です

人間関係・社会性

ねらい

他者との関わり（人間関係）の形成
自己の理解と行動の調整
仲間づくりと集団への参加



支援内容

●アタッチメント（愛着行動）の形成

人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成します。

●模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援します。

●感覚運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援します。

●一人遊びから協同遊びへの支援

周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連

合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援します。

●自己の理解とコントロールのための支援

大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援します。

●集団への参加の支援

集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びやルールのある集団遊びを通じて参加できるよう支援します。

食事の指導

お子さんの発達段階に合った道具選びや道具の持ち方の指導が大切になってきます。そのため、ひかりの子ではスプーンやフォークの三点持ちが安定してからのお箸への移行を推奨しています。三点持ちが安定することで、お箸や鉛筆を正しい持ち方で使用することが可能になります。ひかりの子では、食事のマナーとして「よく噛んで食べること」「利き手でない方の手は食器に添えること」「口を閉じて噛むこと」「食事後は手拭きタオルで口周りを拭くこと」を確認しながら、食事をしています。食事はおいしく、楽しく食べることが基本になります。そのため、食事のマナーや道具の持ち方の指導は、はじめの5分間等の時間を決めたり、スモールステップで取り組んでいくことが大切です。

移行支援

全ての子どもが共に成長できるよう、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようにし、かつ同年代の子どもとの仲間作りを図っていきます。

園での様子を聞き取り、日頃のご様子や支援内容について共有したり、支援方法の伝達等を行います。そのうえで適切な対応について一緒に考えていき、支援の方向性を共通化していきます。

家族支援

- ・子どもに最も大きな影響を与える環境であるご家庭への支援は欠かせません。子どもの発達の理解の促進や具体的な情報提供、他の保護者との出会いの場の提供等を心がけていきます。
- ・ご家族の子どもの発達に対する心配、困り感、疑問、他児との違いの気づき、子育ての困難さからのストレス等々、様々な思いに寄り添い、受け止め、対処を考え継続的に支援していきます。
- ・就園前、就学前には説明会を開催し、具体的な情報提供・個別相談を行います。
- ・ペアレントトレーニング 親御さんと子どもさんがより良いコミュニケーション関係を築けることを目的とし毎年1回親子クラスを主体に開催します。

地域支援・地域連携

ご家族の希望に応じて関係機関との連携会議や担当者会議を実施し、園や相談先の担当者と情報交換し、お子さまとの関わり方の提案や支援方法について助言等を行います。

職員の質の向上

入職時研修

支援の心構えから虐待防止、法令遵守、障害の特性および支援のあり方、療育方法、地域との連携等について研修

毎日のミーティング

サービスの提供後に指導員・保育士が全員参加し、お子さまの一日の様子と支援の振り返りをします。このミーティングでお子さまの行動の意味が理解でき、そして次回の療育内容と方法について話し合い職員同士でお互いの技能を高め合う体制づくりができています。

法人研修

毎年 1 回法人全体で事例検討会、外部講師の講演を開催します。

外部研修

地域で行われる講習会の案内等を掲示し参加を推奨